

謝罪定型表現の日・英語対照研究

大谷 麻美

1. 問題の所在と本研究の目的

謝罪表現は実際の談話のなかで謝罪以外にも、挨拶や感謝など多様な機能を持つ場合が多く、一般的に謝罪表現と考えられているものが、文脈の中ですべて一様な機能を果しているとは限らない。まして、異なる言語間では、いわゆる謝罪表現と呼ばれるものが同じ働きを持つかどうかは明らかではない。しかし、これまでの日・英語の謝罪の対照研究は謝罪のストラテジーに観点を置いたものが多く、慣用的な謝罪表現そのものの機能は対照されてこなかった。

そこで、本稿の目的は、①日本語と英語の謝罪定型表現（後述）が実際に談話の中で用いられた際の機能の特徴を明らかにし、さらに②なぜそのような機能の特徴が生じるのかを考察する。

2. 謝罪とは

2. 1 Remedial and Supportive ritual

Goffman(1971)は、儀礼(ritual)の中でも特に主なものとして次の二つを挙げている。

Supportive ritual.... その儀礼を与える人と受け取る人との社会的関係を確かめ合い、維持するもの 例... grooming talk, greeting, farewell 等

Remedial ritual.... 相手の気分を害する(offensive)と思われることを、相手に許容してもらえようように変える修復行為 例... 謝罪、言い訳、お願い等

本稿では、謝罪をこの remedial ritual の定義にのっとり考察する。

2. 2 謝罪表現の種類

謝罪に用いられる表現には大きく次の二つがある。

定型表現... 謝罪の際の慣用表現として最も一般的に使用されているきまり文句

例: 「すみません」「ごめんなさい」「もうしわけありません」「失礼」

“Excuse me” “I’m sorry” “Pardon me” 等。しかし、実際の談話においては、相手との関係修復として以上の多様な機能を持つことも多い。非定型表現... 定型化、慣用化していないが、事実関係を叙述することや、謝罪する側の気持ちを叙述することで相手との関係を修復し、実質的には謝罪として働くもの 例：「遅くまでお邪魔しました」「君には合わせる顔がない」等

本稿は、今まで謝罪としてひとくりにされていた謝罪の定型表現の機能の多様性を検証しようとするものである。

3. データと分析方法

映画の SCRIPT (アメリカ映画 10 本、日本映画 13 本) の中で出現回数が最も多かった “I’m sorry” 系 (97 回)、“Excuse me” 系(63 回)、「すみません」系 (84 回)、「ごめん」系 (32 回) を扱う。

謝罪定型表現を発話した際、その発話によって実際には何が行われているかという発話行為を分析するために、熊谷(1997)の唱える発話の行為的機能を一部加筆修正し、次のような枠組みを設ける。

《行為的機能》... 発話によって遂行される行為としての機能

- I. 情報要求 (相手に情報を求める)
- II. 行為要求 (相手に行動をうながす)
- III. 注目要求 (相手の注意・注目を喚起する)
- IV. 陳述・表出 (情報内容を述べる)
- V. 注目表示 (相手のことば・何らかの存在などを認識したことを示す)
- VI. 関係修復 (聞き手との関係を修復する)
- VII. 関係維持 (聞き手との関係を確認・維持・強化する)
- VIII. 宣言 (しかるべき権威を備えた人物による状況決定的効力をもった発話)

熊谷は「関係づくり、儀礼」という項目を設けていたが、本稿で焦点となる部分であるため、より厳密さを増すために、先の Goffman にのっとり、「VI関係修復」と「VII関係維持」を設けた。

4. 分析

先のデータに見られる謝罪定型表現を上記の行為的機能から分析すると以下のよ
うな結果が得られた。

“I'm sorry”の行為的機能

用法	行為的機能
① 謝罪	VI 関係修復
② 断り	VI 関係修復 IV 陳述・表出
③ 聞き返し	VI 関係修復 II 行為要求

“Excuse me”の行為的機能 ()はその機能が小さいことを表す。

用法	行為的機能
①謝罪	VI 関係修復
②中座	VI 関係修復 IV 陳述表出
③聞き返し	VI 関係修復 II 行為要求
④注意の促し	(VI 関係修復) II 行為要求 III 注目要求
⑤質問・依頼の前置き	(VI 関係修復) III 注目要求 VII 関係維持
⑥出現のマーカ	(VI 関係修復) III 注目要求 VII 関係維持

「すみません」の行為的機能 ()はその機能が小さいことを表す。

用法	行為的機能
①謝罪	VI 関係修復
②感謝	VI 関係修復
③質問・依頼の前置き	(VI 関係修復) III 注目要求 VII 関係維持
④出現のマーカ	(VI 関係修復) III 注目要求 VII 関係維持
⑤別れの挨拶	(VI 関係修復) VII 関係維持

「ごめん」の行為的機能 ()はその機能が小さいことを表す。

用法	行為的機能

①謝罪	VI 関係修復		
②感謝	VI 関係修復		
③断り	VI 関係修復	IV 陳述・表出	
④出現のマーカ	(VI 関係修復)	III 注目要求	VII 関係維持
⑤別れの挨拶	(VI 関係修復)		VII 関係維持

5. 考察

5. 1 日・英語の謝罪定型表現の機能

以上の分析から、謝罪定型表現は大きく次の3タイプの機能を持つことがわかる。

i) 聞き手との関係を修復する(Remedial)機能を持つ場合

聞き手に対する **offense** を聞き手に許してもらえるようにし、聞き手との関係を修復しようとする機能を持つ謝罪定型表現である。

ii) 聞き手との関係の修復をしながら(Remedial)、他の行為的機能も果す場合

謝罪定型表現を用いることで聞き手との関係を修復する一方で、その関係の修復の前提となる何らかの **offense** の存在を伝える機能をも持つ場合がある。

例) 断りとしての “I’m sorry” = 関係修復 + 陳述・表出(謝罪の前提となる **offense**)

iii) 聞き手との関係修復以上に、聞き手との関係確認・維持(Supportive)の機能を持つ場合

謝罪表現が出会いや別れの挨拶として使用される例が英語、日本語共に見られた。このような謝罪表現は、聞き手に声をかけたり挨拶することで、聞き手との関係を確認・維持する機能、Goffman の言う Supportive な機能を持つと考えられる。

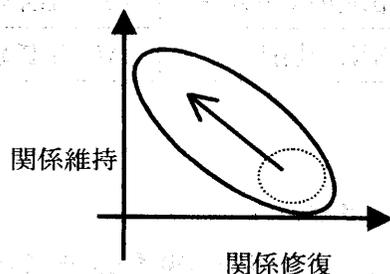
このことから、日・英語の謝罪定型表現の機能に関して次のことが言える。

- ① 謝罪定型表現は実際に談話の中で使用されたときには、必ずしも関係修復の機能、すなわち Goffman のいうところの Remedial work のみをはたしているわけではない。
- ② 謝罪定型表現は聞き手との関係を確認・維持する(Supportive)機能としても働く。

③ 英語以上に日本語に②の傾向が強い。

①②を図に表すと次のように表すことができる。

図1 謝罪定型表現における関係修復機能
と関係維持機能のモデル



5. 2 謝罪定型表現の機能と Politeness

実際の談話の中で、日本語と英語の謝罪定型表現が、本来備え持つ関係修復 (Remedial) 機能以外に、聞き手との関係を確認・維持する(Supportive)機能を持ちうるのはなぜか。これは Brown & Levinson(1987)の Politeness の観点より説明が可能である。

Brown & Levinson(1987)

Positive Politeness... 他人からよく思われたい、理解されたいという、誰もが持つ欲求 (positive face) を満たしてやること、**approach-based**。

Negative Politeness... 自分の領域を守りたい、他人に脅かされたくない、という誰もが持つ欲求 (negative face) を満たしてやること、**avoidance-based**。

謝罪定型表現に、聞き手との関係修復機能と同時に関係維持機能を担わせるプロセスを、**politeness** の枠組みから考えると次のように考えられる。

聞き手との関係を確認・維持 = Positive politeness

↓

しかし、これは同時に聞き手の領域(negative face)を脅かす可能性も持ちうる

↓

その脅かしに対して聞き手との関係を修復する必要 = Negative politeness

↓
その結果として 謝罪定型表現に聞き手との関係の維持機能も担わせる

謝罪定型表現が聞き手との関係修復(Remedial)の機能と関係確認・維持(Supportive)の機能の両方を持つ場合とは、聞き手の positive face と negative face の両方を満たそうとする場合と考えられる。(図2の灰色部分)

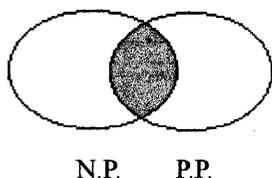


図2 謝罪定型表現が関係確認・維持機能を持つ場合

さらに先のデータより、日本語・英語を比較すると、謝罪定型表現の関係確認・維持機能は日本語の方が英語以上に大きいといえる。(図3)

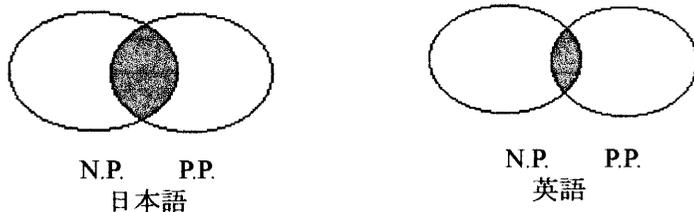


図3 日・英語の比較

日本語で、謝罪定型表現に supportive な機能がより見られるのは、聞き手との関係を確認・維持する時に、英語以上に聞き手の negative face を満たそうとするためだと考えられる。

6. まとめ

以上のことから、英語と日本語の謝罪定型表現は必ずしも、話し手と聞き手との関係を修復する(Remedial)機能だけを持つ訳ではないこと、そして聞き手と話し手との関係を確認・維持する(Supportive)機能をも持つことが明らかになった。また、謝罪表現

の Supportive な機能は英語においてより日本語においてのほうが強いことも明らかになった。それは日本語では、聞き手の negative face への配慮が強いためだと考えられる。

本研究では、話し手と聞き手との人間関係や脅かしの深刻さなどを考慮に入れずに考察したが、実際にはこれらの条件が謝罪定型表現の選択には大きな影響があると考えられる。その点の考察を入れるとさらに日・英語の違いが明確になると思われる。今後の課題である。

参考文献

- (1) 池田理恵子 1993 「謝罪の対照研究：日米対照研究 —face という視点からの一考察—」『日本語学』12
- (2) 熊谷智子 1997 「はたらきかけのやりとりしての会話：特徴の束という形でみた「発話機能」」『対話と知：談話の認知科学入門』 新曜社
- (3) 三宅和子 1993 「視点の観点からみた「感謝」と「詫び」：慣用表現とともに使われる表現：日英比較」『東洋大学短期大学紀要』 25
- (4) 森山卓郎 1992 「関係修復のコミュニケーション：現代日本語のお礼とお詫びの定型表現」『藤森ことば論集』 清文堂
- (5) Brown, P and S.C. Levinson. 1987. *Politeness: Some Universals in Language Usage*. Cambridge: Cambridge U.P.
- (6) Goffman, Erving. 1971. *Relations in Public: Microstudies of the Public Order*. London: Allen Lane The Penguin Pre.
- (7) Ide, Risako. 1998. "Sorry for your kindness': Japanese interactional ritual in public discourse." *Journal of Pragmatics*. 29.
- (8) Kumagai, Tomoko. 1993. "Remedial Interactions as Face-Management: The Case of Japanese and Americans." 『松田徳一朗教授還暦記念論文集』 研究社.

用例出典

『外国映画英語シナリオ スクリーンプレイ・シリーズ』 スクリーンプレイ出版
Always / Baby boom / Back to the future / Forever young /
Field of dreams / Ghost / Indecent proposal / The secret of my success /

The war of the Roses / Working girl

<東宝株式会社 映画シナリオ>

『あ・うん』 / 『居酒屋兆治』 / 『駅』 / 『咬みつきたい』 / 『刑事物語 やまびこの詩』 / 『刑事物語2 りんごの詩』 / 『細雪』 / 『零戦燃ゆ』 / 『東京日和』 / 『翔んだカップル』 / 『ねらわれた学園』 / 『ひめゆりの塔』 / 『誘拐』

(お茶の水女子大学大学院)